

# コミュニティ・スクール絹

小山市立絹義務教育学校 地域連携部 第34号 (令和3年7月発行)

## 生き物調査

開校5年目にして、3回目の、用水路での生き物言調査が実現しました。

7月7日(水)に、6年生が参加しました。



臈長は、講師の中基元一先生が貸してくれたさいました。中基先生は、「めだか里親の会」の事務局長です。



すべる感覚も水の冷たさも体験すればこそ。初めはびくびくしていた子どもたちもすぐに生き生きと活動を始めました。



中基先生のお話はどれもおもしろく、聞く者にとって、新しい情報ばかりでした。子どもたちはもちろんのこと、大人もくぎづけになりました。



先生に教わって、どじょうなど、小さな生き物に触れられるようになった子どもたち。限界はありますか。

肉食の生き物は下アゴが発達している。このヤゴも。ほら、見てごらん。



ロングアインをさせられたヤゴが、元の姿に戻らなかつたらどうしようと思いましたが、スッと元通り。先生は生き物たちに優しく接することを教えてくださいました。

延島小時代に学んだことを覚えている子も何人もいました。体験活動強し!!



土地改良区の曾雄さん



地域のボランティアの方々(絹義務にひ孫が通っている。という方もいらっしゃいました。)

その他、多くの方々の協力で貴重な体験を子どもたちにさせることができました。地域のみなさん、ありがとうございました。

ナマズは子どもがとりました。



タカマを持ってきてくださった方もいます。

この2種の生き物は、それぞれの食物連鎖のトップなんでです。

# ふるさと学習 「煮繭」「真綿がけ」

計画の段階では、転入してきた職員が考え込みます。字を見ると意味はわかりますが、すぐには読めません。



講師の  
永田順子  
先生と  
太田仁美  
先生



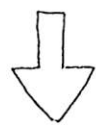
7月8日(木)、3年生が参加し糸織物技術

支援センターで「煮繭」が行われました。

繭を入れた袋が浮かび上がらないよう、棒で押さえる体験を、一人一人、全員がさせていただきました。

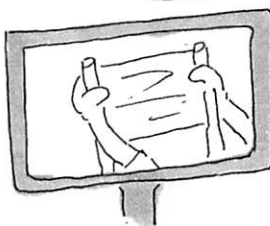


昔繭の中に少量入っていた緑繭も煮ました。

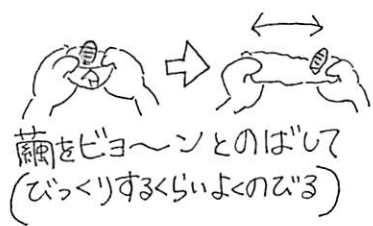


同日午後は、「真綿がけ」の体験です。

子どもたちが学校に戻っている間に、永田先生と太田先生が、煮繭を溶ませ、10コずつ繭を袋に入れておいてくださいました。



説明を聞いた後、テレビ画面に永田先生の真綿がけの様子をくり返し映しながらいざ、体験!!



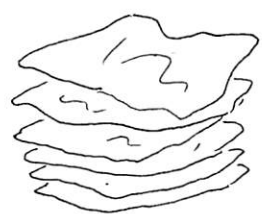
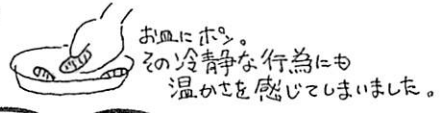
繭をビヨーンとのはして(びっくりするくらいよのびる)



さらにのはして形を整えます。同じ厚さで全体たのはすことが難しい。ここで永田先生のすごさがわかります。



3年生たちが、黒く煮込まれたさなぎに反応することもなく、真剣に真綿がけを行う姿に感動しました。ここには、きりと、積み重ねてきた「ふるさと学習」の成果を見た思いがしました。



一人2枚ずつ仕上げた真綿は、5年生で染色6年生で地機織りをするためのために大切に保管しておきます。

「ふるさと学習」「田んぼの学校」では、力を貸してくださる方を探しています。地機織りの知識・技術をお持ちの方、「田んぼの学校」に興味をお持ちの方は、ぜひ、ご一報ください。

東門前の、旗当番の方々への安全ベストの配付が終了しました。



バス停への送り迎え等で、ご協力いただける方は、ご一報ください。

小山市立絹義務教育学校  
〒323-0155 小山市福良2240-1  
電話 0285(49)0141  
ファックス 0285(49)2764  
E-メール kinugimu@oyama-tcg.ed.jp  
(お問合せ先：前期教頭 海老沼真弓)